コースコード：RH-DO280
税込価格：277,200円 (税抜価格：252,000円)
日数：4日間

ここに注目!!

受講対象者

このトレーニングはこのような方におすすめです。

プラットフォーム管理者、システム管理者、クラウド管理者、およびその他のインフラストラクチャ関連 IT
の職務を担う方で、アプリケーション向けインフラストラクチャの管理と保守を担当する方

エンタープライズアーキテクト、サイト信頼性エンジニア、DevOps
エンジニア、およびその他のアプリケーション関連 IT
の職務を担う方で、アプリケーション向けインフラストラクチャの設計を担当する方

前提条件/前提知識

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

Red Hat OpenShift Administration I: Operating a Production Cluster
(DO180v4.14)、またはそれと同等の、OpenShift Web
コンソールとコマンドライン・インタフェースを使用して Kubernetes
アプリケーションをデプロイおよび管理するスキル。

このコースでは、Linux システム管理に関する豊富な経験は不要です。Bash シェルの操作、ファイルやプロセスの操作、ネットワークアドレスなどのシステム確認に関する基本的なスキルがあれば十分です。DO280 に登録する前に Getting Started with Linux Fundamentals (RH104)
を受講することをお勧めします。

無料のスキルチェック (https://www.redhat.com/rhtapps/assessment/)
でこのコースが自分のスキルに適切かどうかを確認してください。

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

このコースの目標は、Red Hat OpenShift クラスタを管理し、高可用性、復元力、スケーラビリティのあるコンテナ化されたアプリケーションをサポートするために必要なスキルを習得することです。Red Hat OpenShift は、Kubernetes をベースとするエンタープライズ向けに強化されたアプリケーション・プラットフォームで、共通の API と抽象化をセットにして提供し、クラウドプロバイダーと従来のデータセンターの間でアプリケーションの可搬性を実現します。Red Hat OpenShift は、これらの環境間での運用プロセスの一貫性と可搬性を向上させるものであり、マネージドサービスとしてデプロイすることもできます。Red Hat OpenShift on AWS (ROSA) や Azure Red Hat OpenShift (ARO) などの OpenShift のマネージドサービスを使用する場合、Red Hat SRE
チームが、お客様の IT 運用チームと Red Hat OpenShift クラスタを管理する責任を共有します。

アウトライン

宣言的なリソース管理
さまざまなターゲット環境向けにパラメーター化されたリソースマニフェストから、アプリケーションをデプロイおよび更新する

パッケージ化アプリケーションのデプロイ
共有および配布用にパッケージ化されたリソースマニフェストから、アプリケーションをデプロイおよび更新する

認証と認可
HTPasswd ID プロバイダーで認証を構成し、ユーザーとグループにロールを割り当てます。

ネットワークセキュリティ
クラスタ内外のアプリケーション間のネットワークトラフィックを保護する

非HTTP/SNIアプリケーションの公開
Ingress コントローラーを使用せずに、アプリケーションを外部アクセスに対して公開する

開発者のセルフサービスの有効化
複数のチームの開発者が安全にセルフサービスできるようにクラスタを設定し、プロジェクトを運用スタッフがプロビジョニングする必要がある場合はセルフサービスを禁止する

Kubernetes Operatorの管理
Operator Lifecycle Manager および Cluster Version Operator によって管理される Operator のインストールおよび更新を行う

アプリケーション・セキュリティ
昇格された権限や特別な権限を必要とするアプリケーションを、ホストのオペレーティングシステムまたは Kubernetes から実行する

OpenShiftの更新
OpenShift クラスタを更新し、デプロイされたアプリケーションの中断を最小限に抑える